

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	西 区
学校名	大阪市立堀江中学校
学校長名	中西 利彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・大阪市立堀江中学校では、第3学年 186名

平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・平均正答率は、数学Aのみ全国平均と同じで、国語Aは1.5ポイント、国語Bは1.4ポイント、数学Bは0.8ポイント全国平均より下回った。
- ・平均無解答率は、全国平均より国語Aは0.1ポイント、国語Bは1.9ポイント、数学Aは1.0ポイント、数学Bは2.9ポイント上回り、特に国・数ともB問題で数値が高いことが課題である。
- ・生徒質問紙から50「1・2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」の項目についてもH27年度よりも15.8ポイントアップし、全国にあと5ポイント差に近づいてきた。また、図書館の利用者の増加とともに、「読書が好き」の割合も67.2ポイントで年々増加し、全国平均の69.9ポイントに近づいている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

学習指導要領の各領域の平均正答率について、国語Aでは「読むこと」が全国平均より0.2ポイント上回ったが、他の領域は1.3～3.6ポイント下回っている。国語Bでは「書くこと」「読むこと」ともに全国平均より下回り、特に「書くこと」は全国平均より8.1ポイント、大阪市平均よりも1.1ポイント下回った。

生徒質問紙からは、61「国語の勉強が好き」、63「国語の授業内容はよく分かる」等、全国平均を上回る結果が得られたが、得点につながっていないことが課題である。

【数学】

学習指導要領の各領域の平均正答率について、数学A・Bともに「数と式」「図形」については、全国平均より0.1～1.9ポイント上回ったが、「関数」「資料の活用」では1.0～3.8ポイント下回った。特に、数学Aの「関数」領域は全国平均より3.8ポイント、大阪市平均よりも1.2ポイント下回っている。

生徒質問紙からは、71「数学の勉強が好き」、73「数学の授業の内容はよく分かる」等、全国平均を上回る結果が得られたが、得点につながっていないことが課題である。

質問紙調査より

「家で授業の復習をしている」割合が34.9ポイントで、全国平均の51.0に比べ16.1ポイント下回っている。学習塾に通っている割合が全国より上回っているため、「家で全く勉強していない」生徒が全国平均よりも13.6～14.5ポイント高くなっている。「自分で計画を立てて全く勉強していない」割合も23.7ポイントと全国平均の14.8ポイントより8.9ポイント多い。学校外での学習を、家ではなく学習塾での学習にゆだねているところが大きい。

3年間の推移でみると、昨年度まで課題となっていた「言語力や論理的思考の育成」の観点から、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取組方法の改善によって、授業および総合的な学習の時間にも徐々に成果が見られてきた。また、「学校の規則を守っている」割合は全国平均の94.7を0.5ポイント上回り、年々生活指導面において安定してきている。

今後の取組

国語では、特に「話す・聞く能力」および「書くこと」に課題があるため、生徒が主体的に話し合う活動を推進することやアクティビティ・ラーニングと「書くこと」の取組を有機的に行い国語力を活用する場面を増やしていくことで授業改善の工夫を行う。また、学校生活において、国語の授業以外にも文章を書く場面を設定し、国語科の教員がリードして感想や自分の意見等を論理的に書かせる指導や評価を1年時より継続的・計画的に取り組む。

数学では、ICTの活用を通して数学への興味・関心を高め、全国平均に及ばなかった「関数」「資料の活用」においては、習熟度別授業によって個々の指導の強化に取り組む。

また引き続き、全教科において「言語力や論理的思考能力の育成」に視点を置いた授業づくりに取り組むため、校内研修会を実施して情報の共有化を図り、指導法について協議する等、教材研究や指導法の改善と工夫をすすめ、教員の指導力向上を図る。一方、「道徳教育の充実・深化に向けての取組」「読書活動の推進」をすすめるとともに、基本的な生活習慣の確立に向け、学校・家庭・地域と連携し、「朝のあいさつ運動」を継続し、生徒会活動の「5つの取り組み」をさらに全生徒に定着させる。